

2013年11月27日

国土のグランドデザイン有識者懇談会用

「国土のグランドデザインに向けての視座**—— 2050年を視界に入れて」(論点MEMO)**

寺 島 実 郎

長期的構想力の前提として視界に入れるべき5要素 (キーワード)

1、「日本海国土軸」と総合交通体系

- ・日本の貿易構造の変化に対する冷静な認識の必要
- ・太平洋側と日本海側を戦略的につなぐ構想の重要性
- ・アジアダイナミズムと新たなロシア・ファクターの重要性：2020年における原油・LNG輸入の2割超がロシアに
- ・道路・パイプライン・送電網の変化
(圏央道、外環道型の道路ネットワーク)
- ・中央リニアの稼働2027 (東京・名古屋40分、相模原、甲府、飯田、中津川の劇的变化)
- ・空港基盤強化 (羽田の国際化、地方空港など)：LCCの時代
- ・北極海航路の実体化とパナマ運河拡張2015：PANAMAXの変化 (水深15M, 船幅54.9M, 1.3万TEU, 10万トン級へ) —— 港湾整備の戦略性
- ・後背地産業構造：ポスト自動車のプロダクトサイクルの創出が鍵 (自動車産業への過剰依存が日本の弱点)

2、「移動と交流」をテコにした活性化

- ・少子高齢化を衰亡にしない知恵としての「移動と交流の活性化」
- ・国際的には「観光立国」の実体化：外国人来訪者836万人 (2012年) を3000万人へという戦略 (質量ともに重要) —— ジュネーブ、パリの国際中核都市としての惹きつける力
- ・国内的には「マルチハビテーション」(多地域居住)：都会と田舎の交流による活性化 (例えば参加型農業)
- ・交流が相互理解の基盤：「キャンパスアジア構想」の重要性(日中韓大学単位互換協定)

3、資源ポテンシャルの探求とエネルギーコスト低減

- ・「資源小国」認識の打破：海洋資源などポテンシャルへの気付きと挑戦（海洋と宇宙は
相関）
- ・極端に高いエネルギーコストという課題：総合エネルギー戦略の必要性
CF、日本の産業用電力料金（IEA2012年）：米国の3倍、フランスの2倍、
ドイツの1.5倍
エネルギー源の多角化とベストミックス、海外との送配電網（アジア・スーパーグ
リッド）などが鍵

4、広域ブロックとコンパクトシティーを中核とするシナジー

- ・高齢化迎える都市戦略とその広域連携
- ・東北ブロックの復興：広域連携戦略なし——改めて問われる「首都機能分散」とい
う視点（震災対応プロジェクトの進化）
例えば、「キャンプ那須」構想
- ・広域ブロックごとの明確な産業創成戦略の必要：例えば、県境を越えた「三遠南信」
型産業創成
- ・特区構想の実体化：「京浜医療特区」構想の推進
- ・食と農の再生：TPPに入っても食料自給率を6割にもっていく戦略——産業で蓄
積した技術と資金を注入する基盤創生

5、次世代ICT——ネットワーク情報技術革命の取り込み

- ・ビッグデータ、クラウド時代のICT
CF、「自動車社会の未来像」研究への取り組み
- ・21世紀におけるネットワーク型世界観の重要性

視界に入れるべき分析

- ① シンガポール・モデル（PHGDP 5.3万ドル）、デンマーク・モデル（PHGDP 5.
8万ドル）——日本は3.9万ドル（2013年、IMF）で世界23位
——いかにして付加価値を高めるのかという視座
- ② 異次元の高齢化社会の内実：単なる高齢化ではない社会総体の変化（団塊世代の高齢化
がもたらす社会不安）——成熟型社会の意味